

小島直記伝記文学全集

仁記文集全集

第十三卷

島直

蘇工業学院图书馆
藏书章

中央公論社

小島直記伝記文学全集

第十三卷

定価 三四〇〇円

昭和六十二年 九月 十日印刷
昭和六十二年 九月 二十日発行

著 者 小島直記

発行者 嶋中鵬二

印刷者 杉浦 博

発行所 中央公論社

〒104 東京都中央区京橋二ノ八ノ七

振替 東京二一三四

©一九八七 検印廃止

ISBN4-12-402533-9

小島直記伝記文学全集

第十三卷

目次

風貌姿勢——伝記における人間像

いの章	伊庭貞剛の意思決定	15
ろの章	論より証拠ということ	19
はの章	伯楽・滝田樗陰伝	23
にの章	人間の絆	27
ほの章	本の話	31
への章	ヘンリー・ルースの教訓	35
との章	頭山三代目	39
ちの章	兆民先生	43
りの章	竜の星座	47
ぬの章	沼間守一	51
るの章	流浪の人	55

おの章 ^(を)	桜痴の政治小説	59
わの章	猥談	63
かの章	紙の話	67
よの章	余技の世界	71
たの章	大陸日記	75
れの章	連隊長	79
その章	粗忽者	83
つの章	強い男	87
ねの章	眠り	91
なの章	成島柳北	95
らの章	ラム	99
むの章	武藤山治自伝	103
うの章	うそ	107
いの章 ^(を)	インド	111
のの章	野口遵	115

おの章	小野 梓	119
くの章	葉の効用	123
やの章	山路愛山	127
まの章	益田 孝	131
けの章	決闘状	135
ふの章	冬の時代	139
この章	小泉三申	143
えの章	榎本農商務大臣	147
ての章	転 職	151
あの章	安部磯雄	155
さの章	酒	159
きの章	銀	163
ゆの章	由比正雪	167
めの章	眼	171
みの章	民友社時代	175

しの章 縮 図
 えの章 英 雄 伝
 ひの章 碑 文
 もの章 森 有 礼
 せの章 戦時宰相論
 すの章 駿 河 路

199 195 191 187 183 179

人 材 水 脈 — 日本近代化の主役と裏方

横 井 小 楠 実学説き弾圧受ける
 由 利 公 正 「御誓文」起草に小楠の影響
 安 場 保 和 小楠塾へ通わせた母
 山 本 条 太 郎 吉田茂とは従兄いとこ弟同士

217 213 209 205

岡倉天心	牛鍋囲んで逍遙らと文学論	221
元田永孚	明治天皇に論語を講ずる	225
團 琢磨	先見の明、「鉦山学」志す	229
上田安三郎	三池炭販売に奔走	233
頭山 満	気骨の知事安場と意気投合	237
成島柳北	『柳橋新誌』で藩閥政府を批判	241
山路愛山	終生変わらぬ蘇峰との友情	245
五代友厚	グラバーが決定したその運命	249
井上 馨	長崎で新式銃を購入	253
大隈重信	人間くさがよぶ魅力	257
土居通夫	鴻池の家政改革を実現	261
中井 弘	別れた妻は井上馨と……	265
左近允隼太	西郷軍に加わり散る	269
大久保利通	渋沢栄一と犬猿の仲	273
郷 純造	『幕末太閤記』コッコツと財築く	277

郷 誠之助	道楽から一転、会社再建の名人に	281
小 栗 忠 順	政治の暴力性に泣く	285
蟻 川 新	反体制精神を貫き維新をえぐる	289
小 室 三 吉	買われたその愛社精神	293
馬 越 恭 平	かつての部下を会社再建に登用	297
石 光 真 清	軍人やめて諜報活動	301
徳 富 蘇 峰	福地桜痴を慕い記者志す	305
三 木 武 吉	山県家門前で毎晩演説ぶつ	309
原 敬	“ひとやま”あてて宰相となる	313
陸 羯 南	健筆、青年の血わかす	317
長谷川如是閑	記者時代に羯南の影響受ける	321
杉 浦 重 剛	議員辞し「称好塾」興す	325
大 町 桂 月	酒客、中毒で筆動かぬ時も	329
岩 波 茂 雄	重剛に直談判し特別入学	333
浜 尾 新	謹直で人格第一主義	337

正岡子規	露伴の評で小説を断念し俳句に	341
安田善次郎	趣味に生きた実業家	345
大倉喜八郎	功成り、風流の日送る	349
伊庭貞剛	栄達よりも心の平静	353
野田卯太郎	益田孝にほれこまれた大食漢	357
小泉策太郎	『国民之友』読み、開眼	361
深井英五	牧師志し同志社へ、しかし	365
高橋是清	蘇峰門下生に救われる	369
田中義一	三申の影響で政界へ	373
三宅雪嶺	スゴ味のきいた筆誅	377
福沢桃介	体験からの処世術を説く偽悪派	381
安岡正篤	東条憲兵政治の病根をつく	385
八代六郎	「真の序」知る老提督	389

四大財閥の源流

隅田川舟中大議論

——岩崎弥太郎と渋沢栄一 経営論争

395

柏屋の招宴 395

合本主義の權威者 396

裏面事情 399

過当競争第一号 402

大隈の庇護 404

経営実績 408

渋沢栄一の『真生涯』 412

三井財閥の基本路線

——三野村利左衛門と井上馨

416

ギヴ・アンド・テイクの関係 416

タレント第一号、三

野村 417

新しい役割 420

井上大蔵大輔 421

小野・

島田両家の没落 423

功勞者の処遇 427

井上の経営能

力 429

住友群像

——「シーメンス事件」にまつわる雑感

433

川田順、回想 433

人知れず善をなす、湯川寛吉 436

住友信託の創業者、吉田真一 441

薄給主義者、鈴木馬

左也 444

富豪の晩年

——安田善次郎の光と影

矢野文雄の『安田善次郎伝』 450

『財界人物我観』 455

大磯別邸 466

文人政治家矢野龍溪 452

あとがき

小島直記伝記文学全集

第十三卷

風貌姿勢

風貌姿勢

——伝記における人間像

